

いしずえ

# 〈礎〉

礎（いしずえ）とは、主に土台となる物のこと、「物事の基礎になるもの」という意味があります。

ここ数年間、二中学生徒会ではボランティア活動に力を入れ、被災地支援や地域でのボランティアなど、学校外にも活動の輪を広げ、周りに目を向けて行動することができる、奉仕の心を大切にしてきました。

しかし、現状の二中を考えると、周りに目を向ける前に、各々が当たり前にするべきことがおざなりになってしまっているような印象を受けています。実際に、昨年度の後期まとめアンケートの結果を見ると、ボランティアに関する項目は高い数値なのに対し、「時間行動」「給食や清掃活動」「提出物」「交通ルール」など全員できていなければならない項目については、肯定的な回答が少なくなっていました。また、自己評価と他者評価の違いが大きく、やっているつもりになっていることも課題となっています。

変化の激しい現代の中でも、当たり前にするべきことを各々が考え、行動していくことができる人を目指していきたい。そのために、令和七年度の山形二中学生徒会は、**中学生としての基礎を改めて固めていきたい、生活の土台を盤石にしていきたい**と考えました。

そこで、主に

- ・自己管理ができる
- ・周りの人に配慮、感謝ができる

の二つの観点から生徒会活動を行っていきます。

## ●自己管理ができる

自己管理ができるとは、自分がやるべきことについて、呼びかけられてからではなく、自分から行うことを意味すると考えています。時間行動や挨拶など当たり前にするべき事を、当たり前に行うことができるようになることが重要なのではないのでしょうか。このように、周りとの関わりを重視する前に、まずは自分自身の「礎」を盤石なものにしていきましょう。

## ●周りの人に配慮、感謝ができる

周囲や環境に合う行動をすることは、人間関係を築くための「礎」であると思います。自分の行動がよくなれば周りをよりよくすることはできません。礼儀正しい行動や、思いやりのある言動、奉仕活動などは、他者と繋がるとともに、最終的には自分自身の成長につながるはずです。また、給食活動や清掃活動を通して感謝の心を行動で表していくことも、大切なことだと考えます。